

海外における日本語教育事業概観



①日本語教育情報交流

下記の日本語教育関係資料・情報を提供。(ホームページ、JFICライブラリーなどで閲覧できます)

①「日本語教育通信」52～54号

海外の日本語教師および学習者を対象に、教材情報、授業のアイデア、日本事情や日本語教育情報等を提供(ウェブサイトでは、紙冊子PDF版およびウェブサイト限定記事を公開)。

②「国際交流基金日本語教育紀要」2号

ジャパンファウンデーションの日本語教育事業に携わる専門家等の研究論文、事業報告などを掲載(ウェブサイトでPDF版を公開)

③「日本語教育論集 世界の日本語教育」15号

世界の日本語教育、日本語学の研究成果を発表する専門学術論文誌(毎年発行)。ウェブサイトでは、創刊号から最新号までの全論文の要旨(13号より全文)を掲載。

④ 日本語教育国別情報

日本語教育の実施状況、教育制度と外国語教育、教科書、教師などの情報を、ウェブサイト上で紹介しています。

⑤ 海外日本語教育機関調査

2005年3月に「海外の日本語教育の現状-日本語教育機関調査・2003年」(4,800円)、「概要版」(300円)を発行(発売元は凡人社)。概要版はウェブサイトで公開。

②弁論大会・シンポジウムの開催

「日本語教育スタンダード」構築に関するシンポジウムや第46回「外国人による日本語弁論大会」を開催しました。

③日本語教育専門家派遣・日本語教育巡回セミナー

海外の日本語教育の中核となる日本語教育機関に対して、以下の通り日本語教育専門家、ジュニア専門家を派遣。また、専門家が派遣されていない地域には、近隣国に派遣されている専門家が、巡回セミナーを実施しました。

- ①日本語教育専門家 39カ国 80件
- ②ジュニア専門家 18カ国 32件
- ③巡回セミナー 10カ国 11件

④アジア青年文化奨学金(予備教育)

ASEANとバングラデシュの計11カ国から18名の奨学生を選抜し、マレーシアで、日本の大学院留学のための日本語教育を中心とした予備教育を実施しました。

⑤日本語教育機関支援・日本語教育プロジェクト支援など

海外の日本語教育の中核となる日本語教育機関や日本語教育学会、日本語教育NGOが行う学会、弁論大会、講座などに対して助成を行いました。(200件)

⑥日本語教育フェロウシップ

海外の日本語教育機関が行う教材・教授法・カリキュラム等の開発に協力するため、11カ国より20名の日本語教育専門家をフェロウとして招へいしました。

⑦日本語教材制作助成

海外の日本語教育の教材、副教材、辞書等を出版する13カ国の機関に対して、制作費の一部助成を16件行いました。

⑧日本語教材寄贈

世界109カ国1,039の日本語教育機関に対し、現地では入手しにくい日本語教材を寄贈しました。

⑨日本語国際センターにおける日本語教師の養成・海外日本語教師研修など

海外の日本語教師を招へいして、日本語研修、共同研究等を実施。海外日本語教師のレベルアップ、養成を行いました。(446名)

⑩関西国際センターにおける専門日本語研修・日本語学習者訪日研修など

外交官、公務員、司書等専門性の高い日本語研修や日本語学習奨励事業を実施しました。大阪府JET青年日本語研修や外国語指導助手に対する日本語プログラム、研修生と地域住民の交流等も実施しました。(313名)